

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策

(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策

2 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策

3 (1) 国土強靭化に関する施策のデジタル化 (2) 災害関連情報の予測、収集・集積の高度化

治山ダムの設置により、下流域への土砂の流出を防止する (静岡県浜松市)

事業者：静岡県



土石流等が発生するおそれがあるため、治山ダムを設置 (静岡県浜松市天竜区)

令和4年台風第15号後の状況



治山ダムが流出土砂を捕捉



保全対象地区に被害なし

対策名：3 山地災害危険地区等における治山対策



主たる施策グループ：4-7) 農地・森林や生態系等の被害に伴う国土の荒廃・多面的機能の低下

事業名：緊急予防治山事業 (久保田地区)

- ポイント**
- 土石流等の発生リスクが高い箇所に、治山ダムを設置
 - 令和4年台風第15号時に治山ダムが流出土砂を捕捉
 - 天竜区全体の山地災害被害額が平成30年7月豪雨時に比べて低減

地域の概要・課題

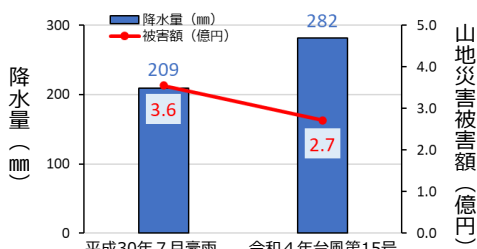
静岡県浜松市天竜区の久保田地区には、土石流等の発生リスクが高い溪流があり、不安定土砂や倒木等が堆積している状況でした。

このため、大雨等の発生時には、大量の土砂や流木が流出し、下流域に被害を与えるおそれが高い状況でした。

事業の概要

土石流等による下流の集落等への被害を未然に防止・軽減するため、静岡県において治山ダムを設置しました。

【平成30年7月豪雨と令和4年台風第15号における降水量と山地災害被害額の比較】



・山地災害被害額：静岡県浜松市天竜区における被害額 ・降水量の観測地点：天竜

効果

令和4年台風第15号では天竜区において山地災害が複数発生しましたが、治山ダムを設置した久保田地区においては、治山ダムが流出土砂を捕捉し、下流域への被害を未然に防止しました。

また、天竜区全体では、山地災害が発生した平成30年7月豪雨と比較し、令和4年台風第15号の方が当時よりも降水量が大きかったにもかかわらず、山地災害による被害額を抑えることができました。

【治山ダムの役割】

